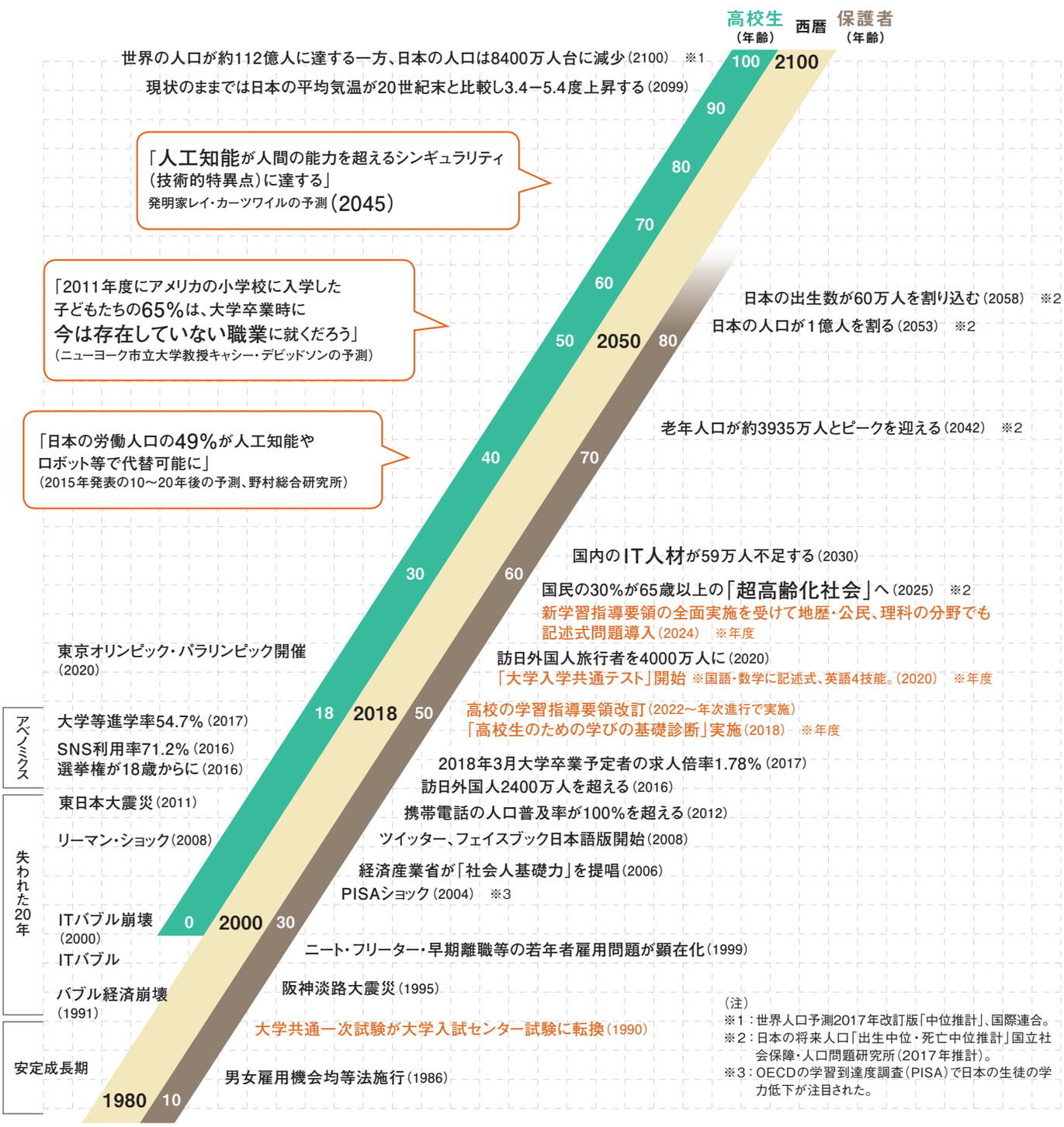
高校生と保護者は未来に何を思いどう向かっていこうとしているか

総研調査レポート

第8回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」調査報告

これからの社会を高校生と保護者はどうとらえているでしょうか。
人生100年時代を生き抜く高校生を支えるために、親子のコミュニケーションはどうあるべきでしょう。
そして高校はどんなことに取り組んでいけばよいのかを最新の調査結果から考察していきます。

高校生と保護者の人生100年　年表



（注）
※1：世界人口予測2017年改訂版「中位推計」、国際連合。
※2：日本の将来人口「出生中位・死亡中位推計」国立社会保障・人口問題研究所（2017年推計）。
※3：OECDの学習到達度調査（PISA）で日本の生徒の学力低下が注目された。

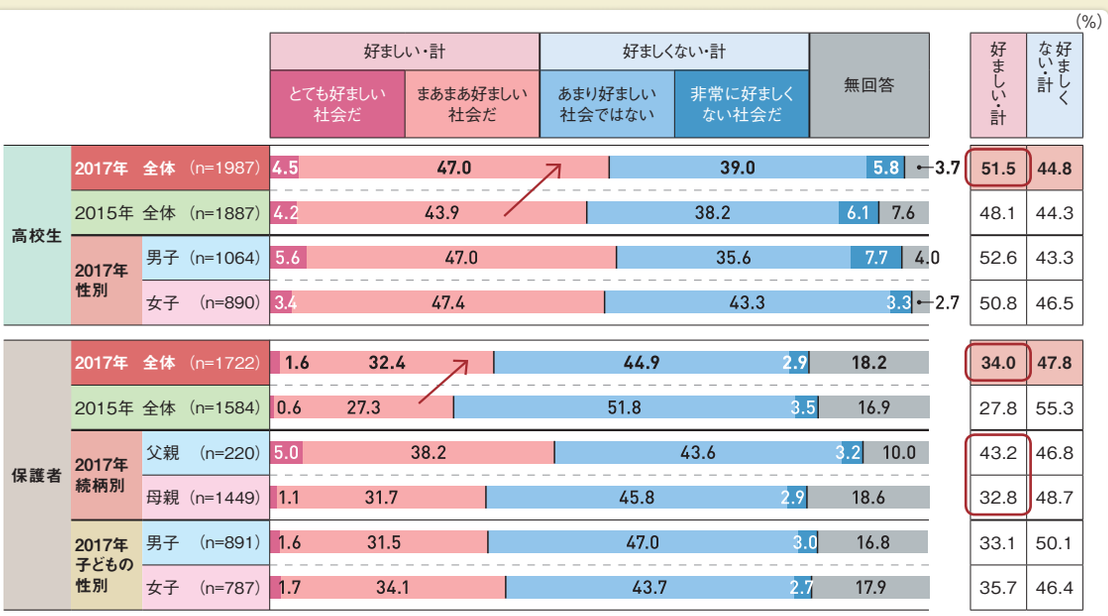
人工知能 AIやグローバル化の影響を保護者より感じつつ前向きな高校生

これからの社会は「好ましい」高校生5割、保護者3割

これからの社会は高校生にとって好ましいと思うかを尋ねた（図1）。「好ましい・計（とても好ましい社会だ＋まあまあ好ましい社会だ）」は、高校生52%、保護者34%と、どちらも2015年よりも増加した。特に保護者では父親が好ましいとする割合が母親よりも10ポイントも高い。

回答理由をみると（フリーコメント1）、高校生は「AI発達による職業・雇用の喪失」「少子高齢化による若い世代の負担増」などを危惧し好ましくないという反面、「グローバル化は個性を出しやすくなる」「選択肢が多い」「若い人が必要とされる」といった前向きな回答が挙がっている。保護者が挙げる理由も、高校生と同様に「少子高齢化に伴う若者への負担増」の心配、複雑化する「社会情勢」の中で難しくなる「人間関係」への不安などが挙がっているが、一方で「働き方改革」による雇用・労働環境の改善により「自分の努力次第」で好ましい未来を実現できるだろうといった期待を込めた回答も目立つ。

図1 未来社会についての認識（高校生・保護者／単一回答）



フリーコメント 1 これからの社会についてそう思う理由

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は、高校生：[都道府県／性別／希望進路]、保護者：[都道府県／続柄／子ども性別／希望進路]

■高校生

【未来社会について「好ましい」回答者】

○これからもっとグローバル化がすすめば、格差や年功序列といったものが薄れ、もっと自分の個性を出しやすくなると思うから[長崎県/男子/大学]

○高齢化がすすんだので私たちのような若い人が必要とされるだろうから[岐阜県/女子/大学]

○将来の生き方についていろいろな選択肢があるから[岡山県/男子/大学]

【未来社会について「好ましくない」回答者】

○AIの登場によって、便利な社会とはなるが、職に就きづらくなると思われるから[福島県/女子/大学]

○格差や、妊娠した時の仕事、保育園などについて不安が多いから[東京都/女子/大学]

○高齢者が増加しているため、それを若い世代が金銭的にも支えなければいけないような社会だと思うため[和歌山県/男子/大学]

■保護者

【未来社会について「好ましい」回答者】

○時代によって働き方の考えも変化しているので、今現在、選択肢がたくさんあり、かなり自由だと感じています[群馬県/母親/女子/就職]

○自分のやりたいこと、または自分にあった職業に就くことができれば、どんどん力を発揮し、伸びていくことができる社会になっていると思う[長野県/母親/男子/大学]

○時代とともに職業の種類が増え、それに対して少子化ということがあり、努力すればチャンスや可能性は広がっていくように思えます[群馬県/母親/男子/大学]

【未来社会について「好ましくない」回答者】

○人間関係が複雑になってきていることと、社会が安定していないため、生きがいを持ってある程度豊かなくらしができるのか不安です[長崎県/母親/男子/大学]

○社会インフラの老朽化、高齢化、国際情勢不安、エネルギー問題、人手不足[岩手県/父親/男子/大学]

AIの発達の影響が「ある」は高校生5割に対し保護者4割

AIの発達などの技術革新の普及・発達は高校生の将来に影響があると思うか尋ねた（図2）。高校生では影響が「ある」は52％であるのに対し、保護者で「ある」は39％と高校生を下回る。

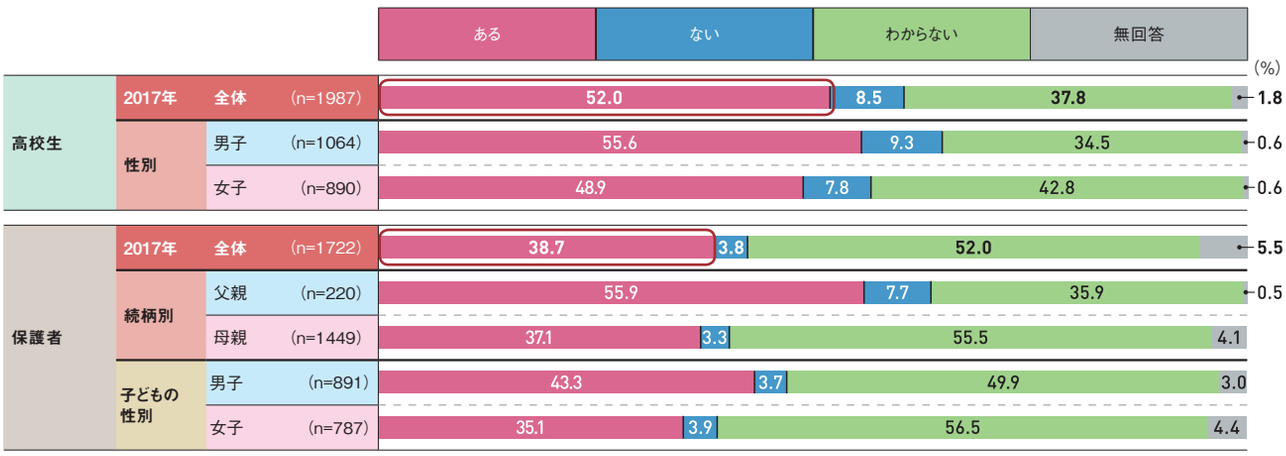
性別で比較すると、高校生では「ある」が男子56％で女子49％を上回り、保護者では、父親56％、母親37％、子どもの性別でも男子43％、女子35％と、男性のほうがAIの影響が強いと認識している。

AIの将来への影響が「ある」と思う理由として、高校生・保護者のどちらも「生活を便利にする」「人手不足を解消する」メリットを現在すでに感じつつある反面、近い将来には「人間の仕事が減る」と職業選択・雇用への影響を懸念しているという意見がみられた（フリーコメント2）。

一方、影響が「ない」と思う理由は、高校生では自身が将来就きたい職業（看護師・教師・警察官など）は「AIに代わることはない」という意見が目立った。

また、保護者が「わからない」と思う理由としては、AI普及は初期段階であり影響を考えるのは「まだ早い」などの意見がみられた。

図2 AIの発達などの技術革新の普及・発達は影響があるか（高校生・保護者／単一回答）



フリーコメント 2 AIの影響についてそう思う理由

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は、高校生：[都道府県／性別／希望進路]、保護者：[都道府県／続柄／子ども性別／希望進路]

■高校生

【AIの影響について「ある」回答者】

○人工知能が発達していって、これから自分たちの生活が便利になっていくと思うから[長崎県/女子/専門学校]

○AIの発達で増える、または減る仕事によって、これから自分が何を学ぶべきなのかが変わってくると思うから[福島県/男子/大学]

【AIの影響について「ない」回答者】

○私が目指している分野の仕事はAIにとってかわることができないと言われているから[福島県/女子/大学]

【AIの影響について「わからない」回答者】

○AIのことはよく話題になるが、身近なところであまりAIの話や普及を感じないから[岩手県/女子/大学]

■保護者

【AIの影響について「ある」回答者】

○現在も、スーパーのレジ、鉄道の駅員など機械化で人件費が削減されている。会計士などが不要な時代も近い。影響は必ずあると思います[和歌山県/父親/男子/大学]

○AIの発達は、人手不足の解消につながるが、同時に雇用にも大きく影響すると思うから[岡山県/母親/男子/大学]

【AIの影響について「ない」回答者】

○そんなにすぐにAIだけにはならない[福島県/母親/男子/大学]

【AIの影響について「わからない」回答者】

○AIは一部で急速に発展しているが、まだ入口段階の気がする。影響を考えるには、まだ早いかと[東京都/母親/女子/大学]

フリーコメント 3 グローバル社会で通用する人材になりたい理由、なりたくない理由<高校生>

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は、[都道府県/性別/希望進路]

【「ぜひなりたい」「できればなりたい」回答者】

○グローバル社会反対派が何を言おうと、社会はどんどんグローバル化していくのだから、通用する人材になっていないと、取り残されてしまうから[長崎県/男子/大学]

○これから外国人や観光客が増えるので、外国人との交流は必須になる時代がくると思うから[群馬県/男子/大学]

○日本の労働人口が減っている今、日本は外国の労働者を雇わざるを得ないと思うから。そんな「日本」で働いていくために、グローバルな人材になるべきだと思うから[福島県/女子/大学]

○いろいろな人とふれ合って、どんな価値観のちがいがあるのかとか知りたいし、外の世界が気になる[東京都/女子/大学]

【「あまりなりたくない」「なりたくない」回答者】

○グローバル社会＝英語というイメージが強く英語がとても苦手だから[東京都/女子/大学]

○通用する自信がない[北海道/男子/大学]

「グローバル化が将来に影響」と考える高校生が急増

次に、社会や経済のグローバル化は高校生の将来に影響があると思うか尋ねた（図3）。高校生では影響が「ある」は55％と2015年の40％から大幅増。男女とも5割超が「ある」と考えており、前回43％よりやはり増加した保護者の「ある」48％を上回った。

さらに、将来グローバル社会で通用する人材になりたい（なってほしい）意向を尋ねた（図4）。「なりたい・計」は、高校生は57％・保護者は42％と、高校生の意向が保護者を上回った。高校生の意向は2015年よりも増加している。また、父親の「なってほしい」意向が母親を大きく上回った。

高校生がグローバル社会で通用する人材に「なりたい」理由をみると、外国人労働者・訪日外国人旅行者の増加など、日本国内で起きている変化の認識から、将来自分はグローバル社会に適応する人材に「なるべき」であり、そうならないと社会に「取り残されてしまう」など、グローバル社会で通用する人材になることを当然と考える意見が挙がった。「なりたくない」理由は「英語が苦手」「自信がない」など、すでに諦めている回答が多い（14ページフリーコメント3）。

図3　グローバル化の影響はあるか（高校生・保護者／単一回答）

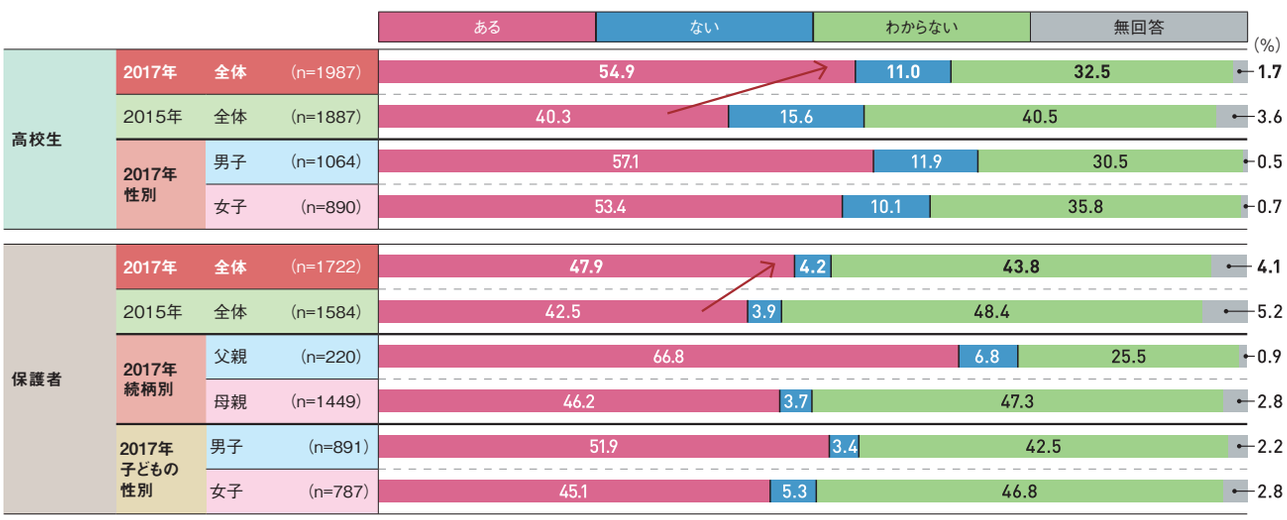
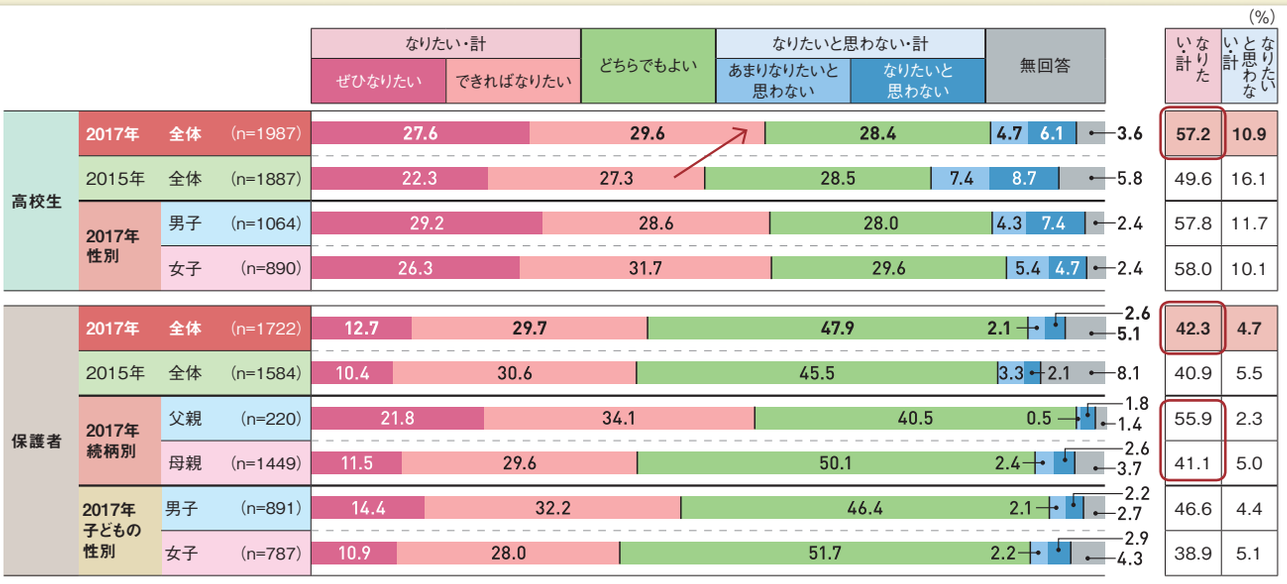


図4　グローバル社会で通用する人材になりたい（なってほしい）か（高校生・保護者／単一回答）



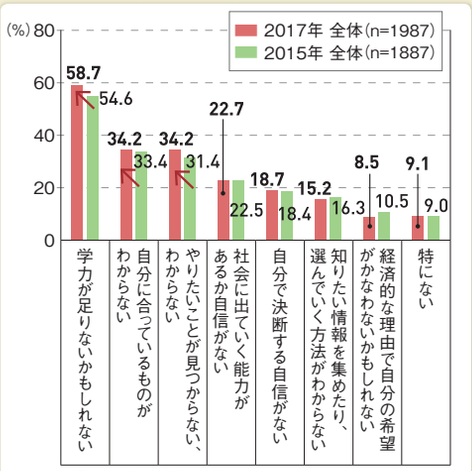
「働くこと」「進路選択」に気がかりが増す高校生

将来働くことについて気がかりがあるか尋ねた（図5）。高校生で気がかりが「ある」は2015年67％から増加し73％。子どもが働くことについて気がかりが「ある」保護者は64％で2015年から変わらない。

働くことについて具体的な気がかりを選んでもらったところ（図6）、高校生・保護者いずれも1位は「就きたい職業に就くことができるだろうか」。以下、高校生の2位は「十分な収入が得られるだろうか」、3位は「職場の人間関係がうまくいくだろうか」、保護者の2位は「職場の人間関係がうまくいくだろうか」、3位は「就きたい職業が思いつくだろうか」が続く。高校生は2015年に比べ1～2位のスコアが微増し3位のスコアが減少、「就職」と「収入」に関する気がかりが相対的に増加している。

高校生の進路選択の気がかりは、「学力が足りないかもしれない」「自分に合っているものがわからない」「やりたいことが見つからない、わからない」の上位3項目が微増（図7）。この2年で高校生はAIの普及やグローバル化の影響の認識が強くなっており（前項）、これら社会変化が進路選択にも影響することを不安視している。

図7　進路選択についての気がかり（高校生／複数回答）



※「2017年 全体」の降順ソート

図5　高校生が将来働くことについての気がかり（高校生・保護者／単一回答）

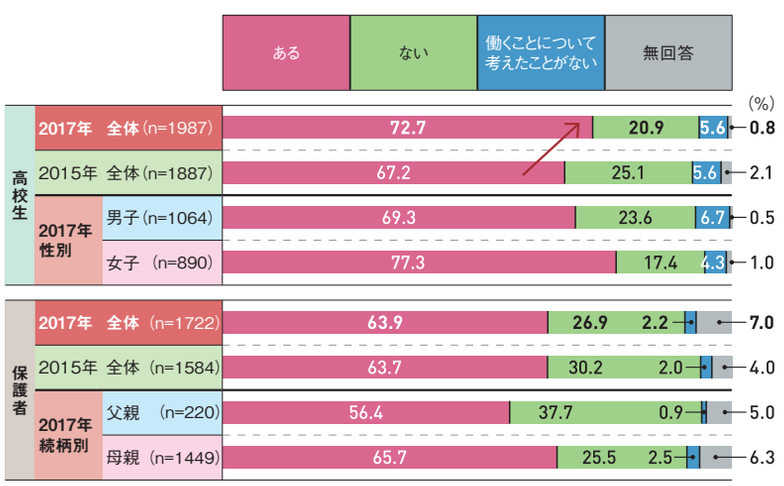
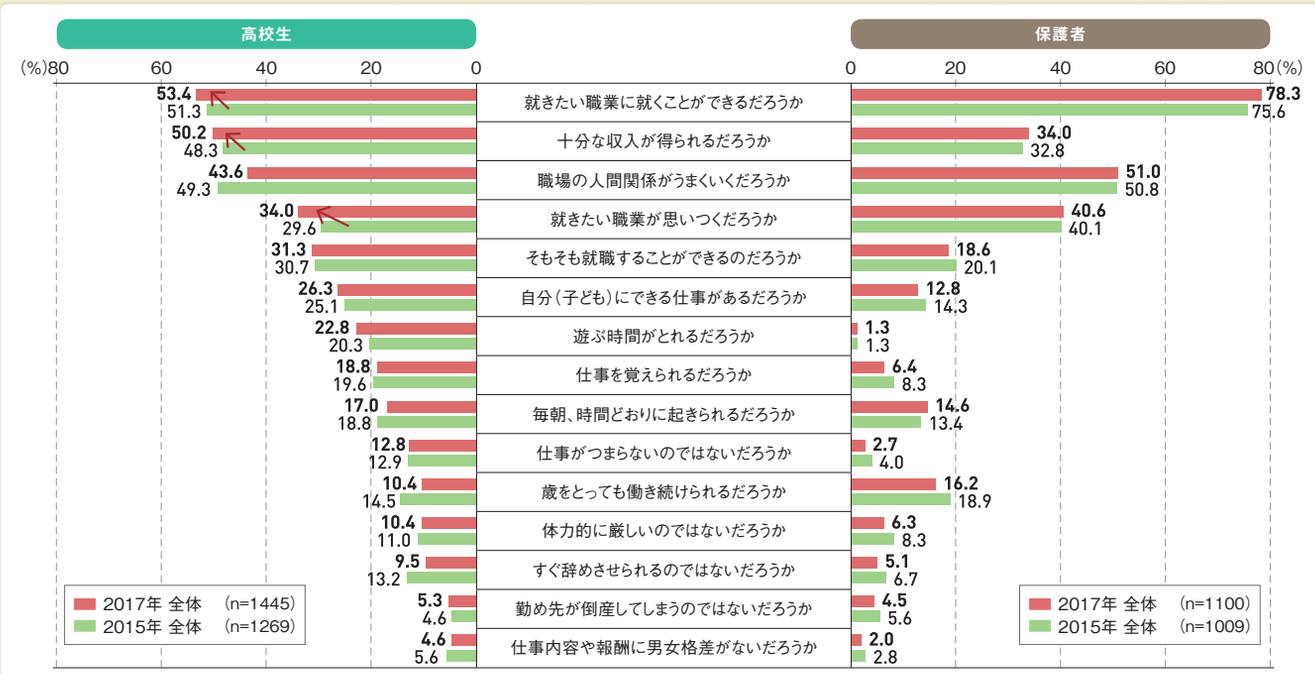


図6　働くことの気がかりの内容（高校生・保護者：図5=気がかりが「ある」回答者／5つまで回答）



※高校生「2017年 全体」の降順ソート

「主体性」「実行力」「発信力」「課題発見力」の育成と「自立」に課題

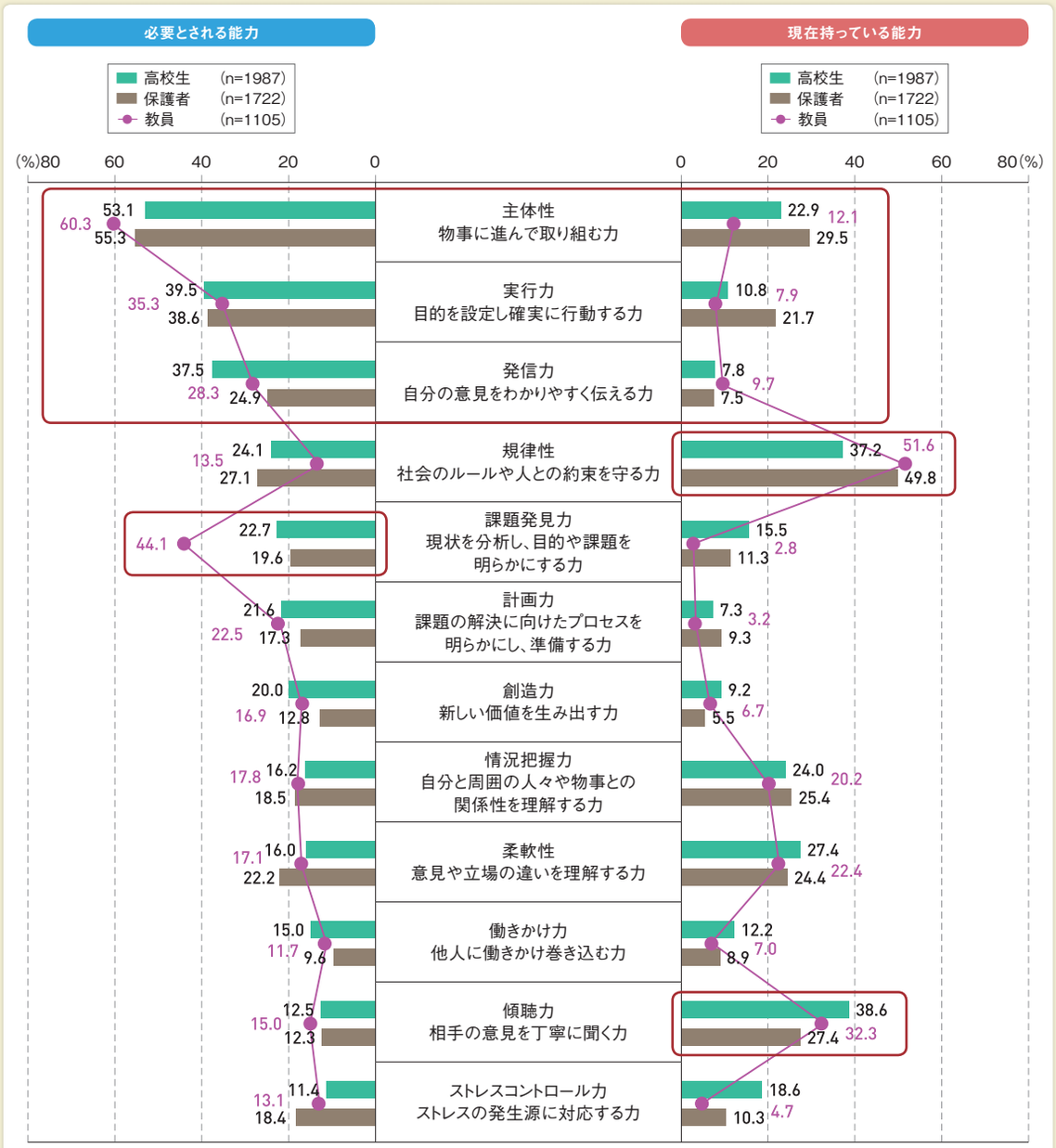
保護者と教員のギャップが大きい「課題発見力」の必要性

高校生・保護者・教員に経済産業省が定義した『社会人基礎力』の能力要素のうち、高校生にとって「将来、社会で働くにあたって必要とされる能力」と「現在持っている能力」をそれぞれ3つまで選んでもらった（図8 ※**教員は2016年実施調査より**）。

「必要とされる能力」は、高校生・保護者・教員のいずれも1位は「主体性：物事に進んで取り組む力」。高校生と保護者の2位は「実行力：目的を設定し確実に行動する力」。高校生3位「発信力：自分の意見をわかりやすく伝える力」。一方「現在持っている能力」は、高校生は「傾聴力」「規律性」が僅差で上位。

「主体性」「実行力」「発信力」は必要な能力と現在持っている能力の差が10ポイント以上あり、注力すべき能力といえる。また教員2位の「課題発見力：現状を分析し、目的や課題を明らかにする力」は保護者・高校生と教員との間で認識の差が大きく、この差を埋めていくことが高校現場での今後の課題と考えられる。

図8 社会で働くにあたって必要とされる能力と現在持っている能力（高校生・保護者・教員／3つまで回答）



※必要とされる能力：「高校生」の降順ソート
※「教員」は2016年『高校の進路指導・キャリア教育に関する調査』（リクルート進学総研）より

精神的な自立はできるが日常的な自立はできない

高校卒業までに「日常生活での自立」と「精神的な自立」ができそうか尋ねた（図9）。「両方できると思う」は高校生・保護者とも約4割。高校生では男子が女子を大きく上回った。また、「精神的な自立はできるが、日常生活での自立はできないと思う」が保護者よりも高い。高校卒業までは日々の家事など自分一人では難しいためだ（フリーコメント4）。また自立を「両方できると思う」高校生・保護者からは、日頃から「自分のことは自分でする」「子離れするように努めている」などの理由が挙がった。一方、「両方できないと思う」理由は、高校生は「勉強以外のことを学ぶ余裕がない」、保護者は「社会人になればできる」など、高校卒業までの自立は難しいという回答が目立つ。

また、進路選択を行う際、どのように決めたいかを尋ねると（図10）、高校生・保護者とも「保護者の意見を少し参考にしながら、自分自身で決めたい」が最も多く、約半数が高校卒業後の進路選択を保護者のサポートが必要ながら自分で決定したいと考えている。また、男子の方が自分自身で決めたい意向が強い。

図9 高校卒業までに「精神的な自立」や「日常の自立」ができそうか（高校生・保護者／単一回答）

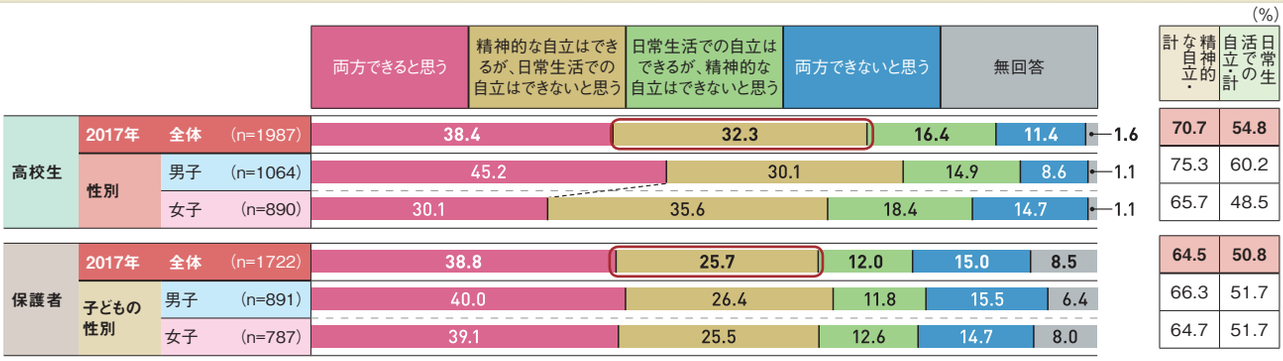
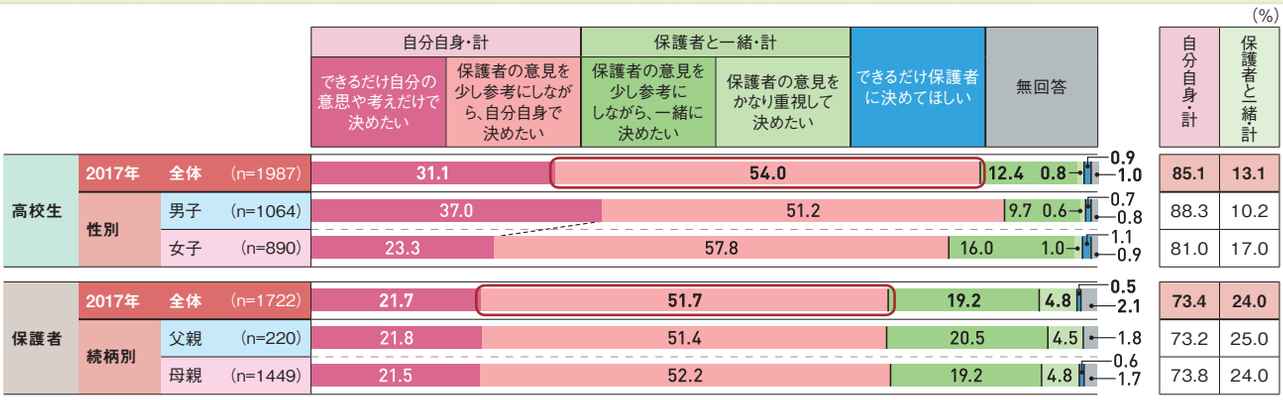


図10 希望する進路の決め方（高校生・保護者／単一回答）



フリーコメント 4 自立できると思う理由、できないと思う理由

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は、高校生：[都道府県／性別／希望進路]、保護者：[都道府県／続柄／子ども性別／希望進路]

■高校生

【「両方できる」回答者】

○日常で自分のできることは自分でしているから。自分の考えなどはハッキリ言えるから[福島県/男子/大学]

【「日常生活での自立はできる」回答者】

○家事の手伝いなどはしているが、精神面ではまだまだ甘えているから[岡山県/女子/大学]

【「精神的な自立はできる」回答者】

○学校でいろいろ鍛えられているけど一人暮らししていけるような日常生活の自立は難しそう[長崎県/女子/大学]

【「両方できない」回答者】

○勉強ばかりで他のことを学ぶ余裕が時間的にも精神的にもない[北海道/女子/大学]

■保護者

「両方できる」回答者】

○子離れするように努めている。日頃の会話や、生活から、できるように思う[長野県/母親/女子/何でもいい]

【「日常生活での自立はできる」回答者】

○高校を卒業後、親元を離れてから気づくことも多く、それらの経験から精神的な自立心は生まれてくる[長崎県/父親/男子/大学]

【「両方できない」回答者】

○世の中に出て、実際に経験・体験して初めて理解できるものだから[岡山県/父親/男子/大学]

Ⅱ 未来社会を生き抜く高校生を保護者と学校はどう支援するか

（1）高校生の進路意識を支える保護者のコミュニケーションとは

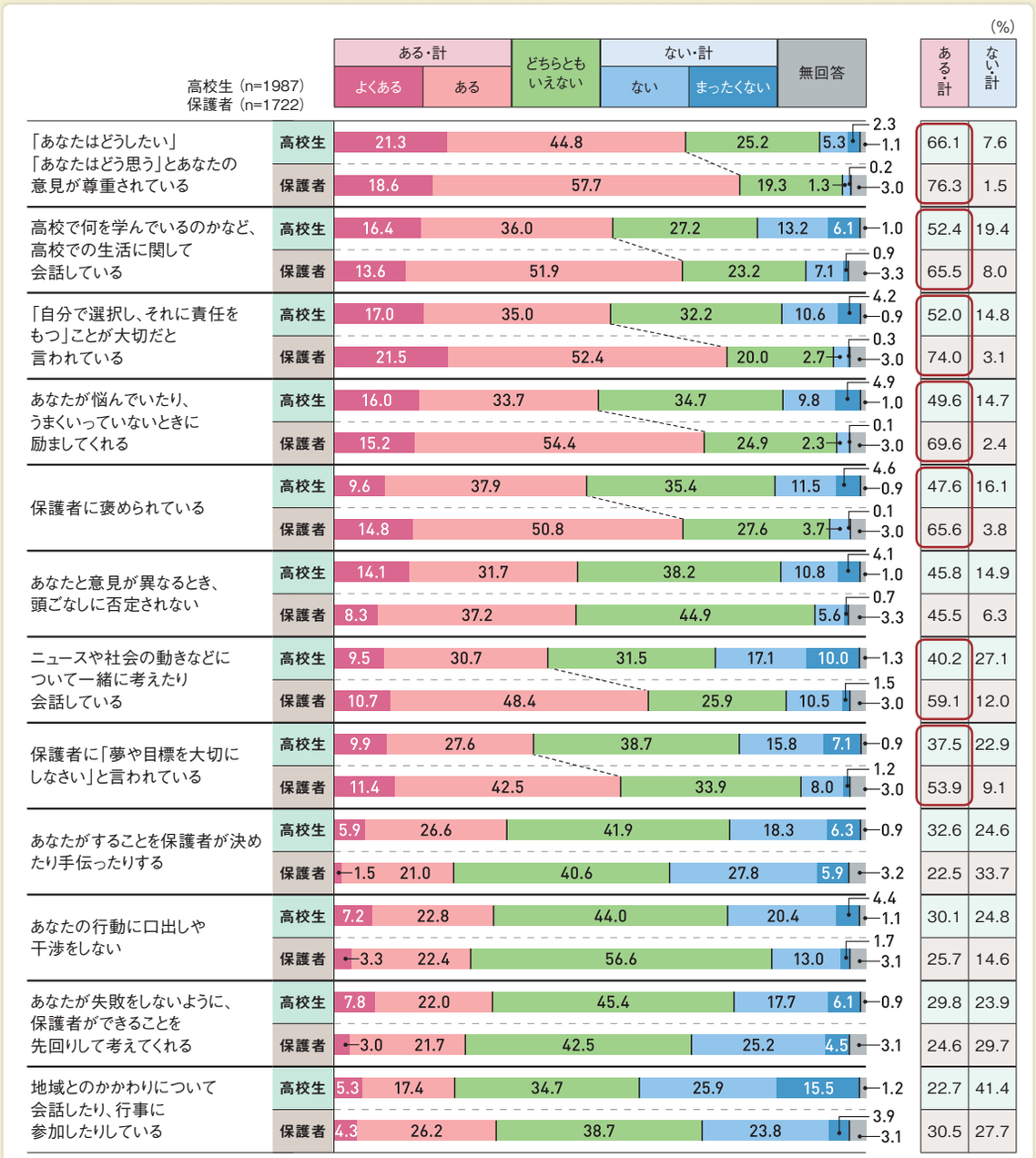
適度な距離感と、尊重し励ます態度が、前向きな進路意識を醸成

コミュニケーションは良好ながら保護者の自己評価が高め

高校生・保護者のそれぞれに日常のコミュニケーションについて12項目を提示し、それぞれ実施状況を尋ねた（図11）。高校生・保護者とも「『あなたはどうしたい』『あなたはどう思う』とあなたの意見が尊重される」が最も多く、「ある・計」は高校生66％、保護者76％と保護者の現状評価が高校生の実感よりも高い。

以下、「高校で何を学んでいるのかなど、高校での生活に関して会話している」「『自分で選択し、それに責任をもつ』ことが大切だと言われている」「あなたが悩んでいたり、うまくいっていないときに励ましてくれる」「保護者に褒められている」「ニュースや社会の動きなどについて一緒に考えたり会話している」「『夢や目標を大切にしなさい』と言われている」はいずれも保護者では過半数を占めるが、高校生は10ポイント以上下回る。保護者が発するコミュニケーションは保護者が思うほど高校生に伝わりにくい現状が浮きぼりになった。

図11 保護者との日常のコミュニケーションや行動（高校生・保護者／各単一回答）



※高校生「ある・計」の降順ソート

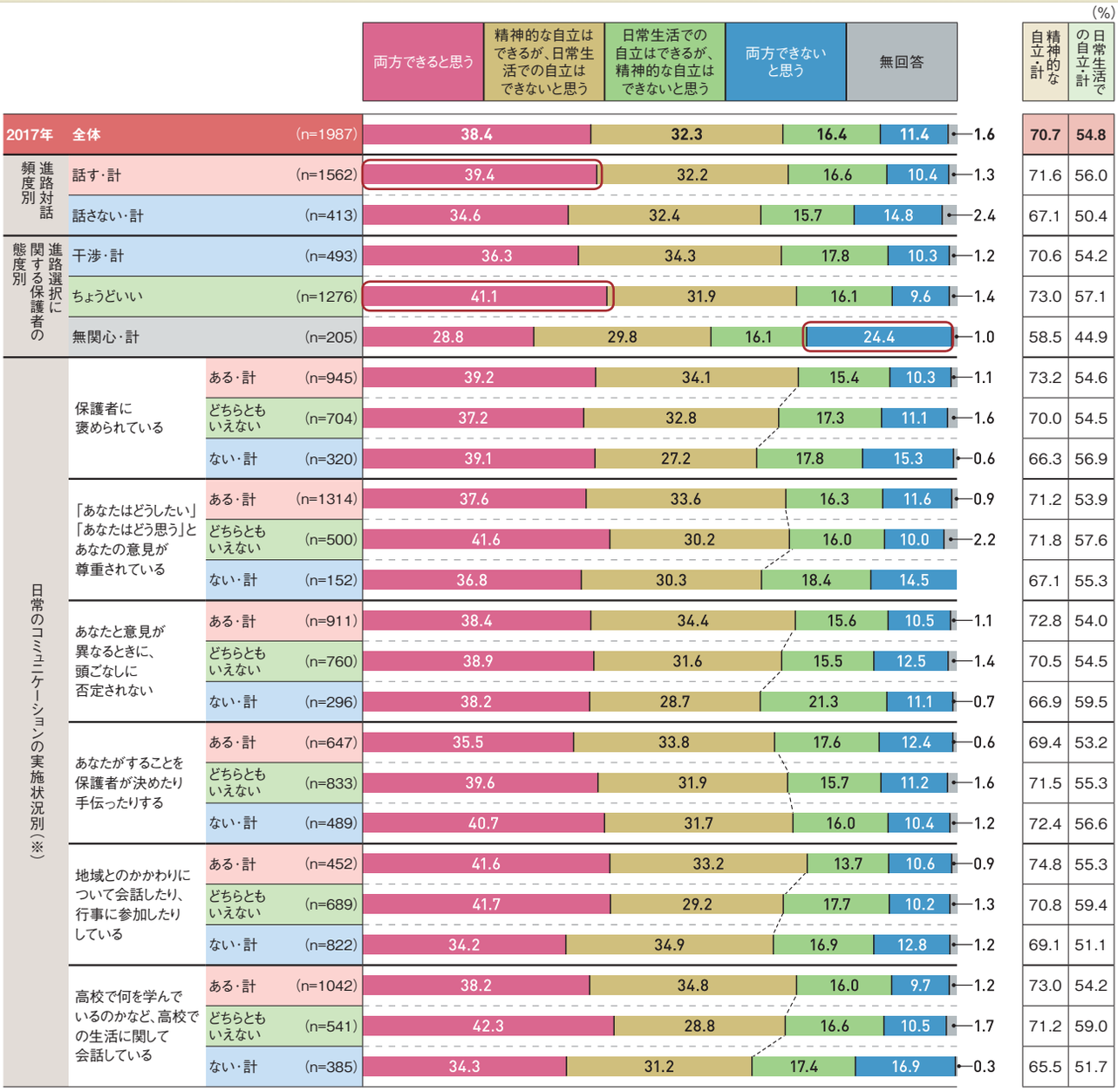
話す・褒める・自分でさせる態度が高校生の自立実感を醸成

ここからは、高校生・保護者のコミュニケーションおよび関係性を測る指標の状況別に、高校生の進路意識の水準を比較していく（※前ページ、日常のコミュニケーションの状況別は違いがある項目のみ抜粋して掲載）。

18ページでみた高校卒業までの自立実感について、「両方できる」が高いのは、進路対話態度別では保護者と「話す」層（図12）。進路選択に関する保護者の態度別では「干渉」「無関心」な層に比べ「ちょうどいい」と感じている層で高い。また、「無関心」層は「両方できないと思う」が突出して高くなっている。

「精神的な自立・計（両方できる＋精神的な自立はできる）」に着目し、日常のコミュニケーションの実施状況別にみると、「保護者に褒められている」「あなたと意見が異なるときに頭ごなしに否定されない」「地域とのかかわりについて会話したり行事に参加したりしている」「高校での生活に関して会話している」状況が「ある」層ほど高く、反対に「あなたがすることを保護者が決めたり手伝ったりする」は「ない」層ほど高い。高校生が自ら考え行動することを促す態度が自立の実感を醸成している。

図12 高校卒業までに「精神的な自立」や「日常の自立」ができそうか（高校生／単一回答）



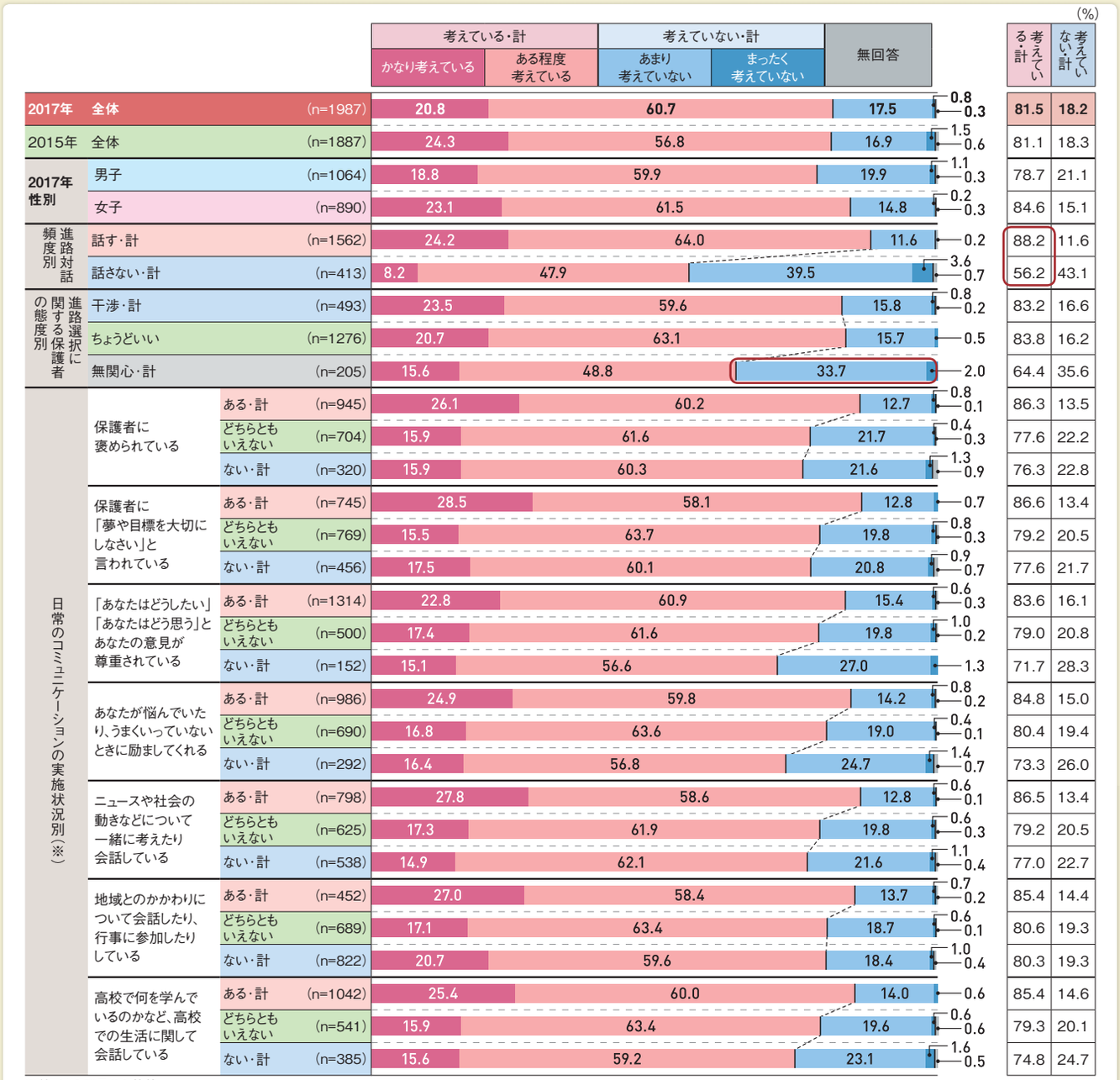
※差がある項目のみ抜粋

保護者の進路選択への関心が高校生の進路検討を後押しする

自分の進路選択についてどの程度考えているか、「考えている・計」に着目してみた（図13）。進路対話頻度別（進路について保護者と話すか話さないか）では、「話す」層は88%が「考えている」と回答、「話さない」層（56%）を大きく上回る。また、進路選択に関する保護者の態度別にみると、「干渉」「ちょうどいい」層は8割強が「考えている」が、「無関心」層は「考えていない」が3割を超える。

さらに日常のコミュニケーション実施状況別にみると、「保護者に褒められている」「保護者に『夢や目標を大切にしなさい』と言われている」「『あなたはどうしたい』『あなたはどう思う』とあなたの意見が尊重されている」「あなたが悩んでいたりうまくいっていないときに励ましてくれる」「ニュースや社会の動きなどについて一緒に考えたり会話している」「地域とのかかわりについて会話したり行事に参加したりしている」「高校での生活に関して会話している」状況が「ある」層ほど高い。保護者がさまざまな話題で積極的に会話し、進路選択に関心を持って温かく見守る態度で接することが、高校生自身の進路検討を促している。

図13 自分の進路選択をどの程度考えているか（高校生／単一回答）



※差がある項目のみ抜粋

保護者の干渉しすぎない励ましが高校生の進路検討を前向きにする

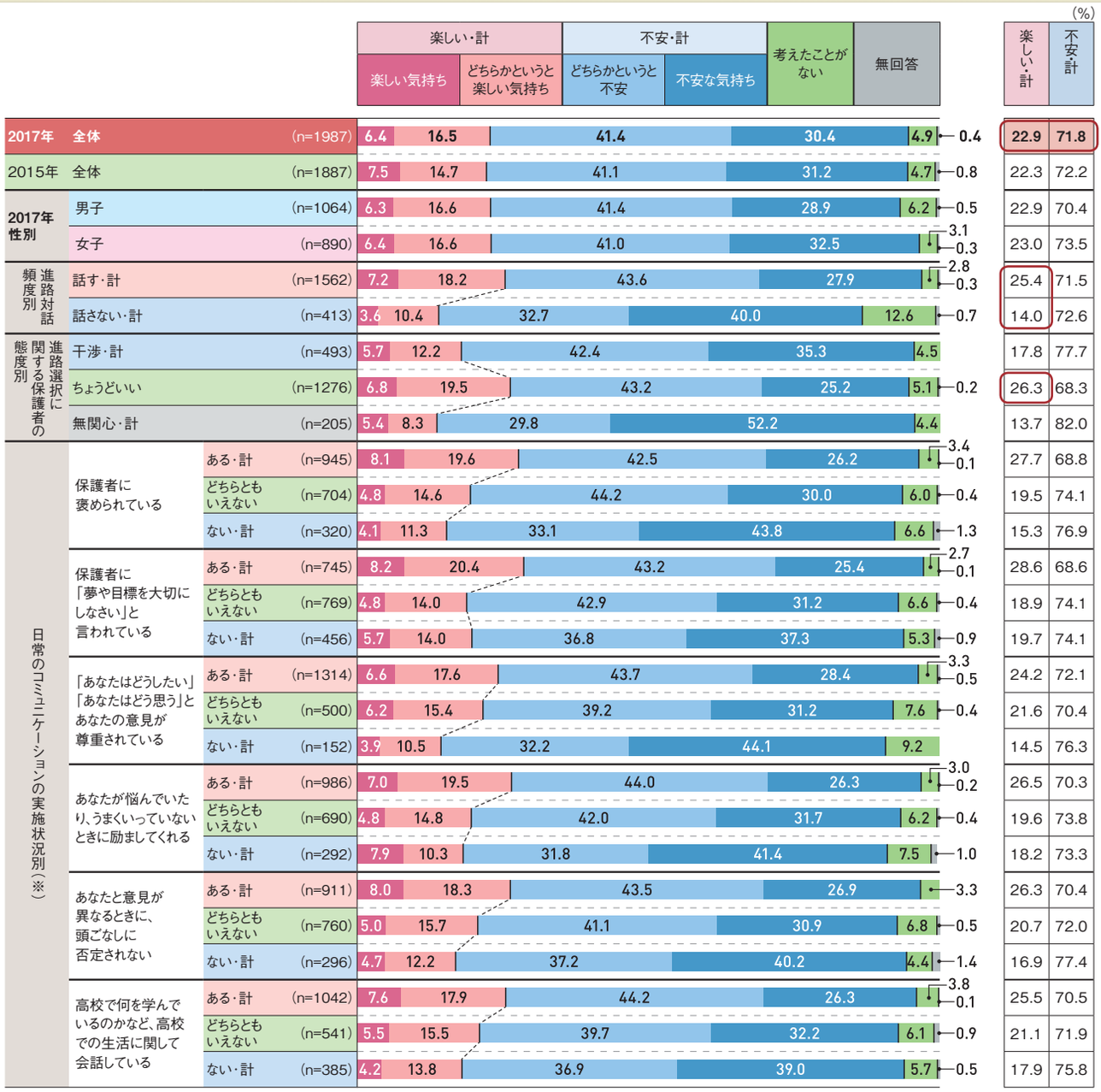
進路を考えるときはどんな気持ちになるか、2017年も前回同様「不安」72%であった。今回は23%にとどまった「楽しい・計」に着目してみた（図14）。進路対話頻度別では「話す」層は25%が「楽しい」と回答、「話さない」層（14%）よりも高い。

また、進路選択に関する保護者の態度別にみると、「ちょうどいい」層が最も高く「楽しい」と回答しており、「干渉」「無関心」が過ぎる態度は高校生を「不安な気持ち」にさせている。

日常のコミュニケーションの実施状況別にみると、「保護者に褒められている」「保護者に『夢や目標を大切にしなさい』と言われている」「『あなたはどうしたい』『あなたはどう思う』とあなたの意見が尊重されている」「あなたが悩んでいたりうまくいっていないときに励ましてくれる」「あなたと意見が異なるときに頭ごなしに否定されない」「高校での生活に関して会話している」状況が「ある」層ほど、進路を考えるときの気持ちは「楽しい」という回答が多い。

保護者が進路選択について過干渉にならない程度に距離を置きながら励ましの言葉をかけることが、高校生の不安を軽減している。

図14 進路を考えるときの気持ち（高校生／単一回答）



※差がある項目のみ抜粋

保護者の尊重と見守りに支えられ進路を歩んでいける自信がわく

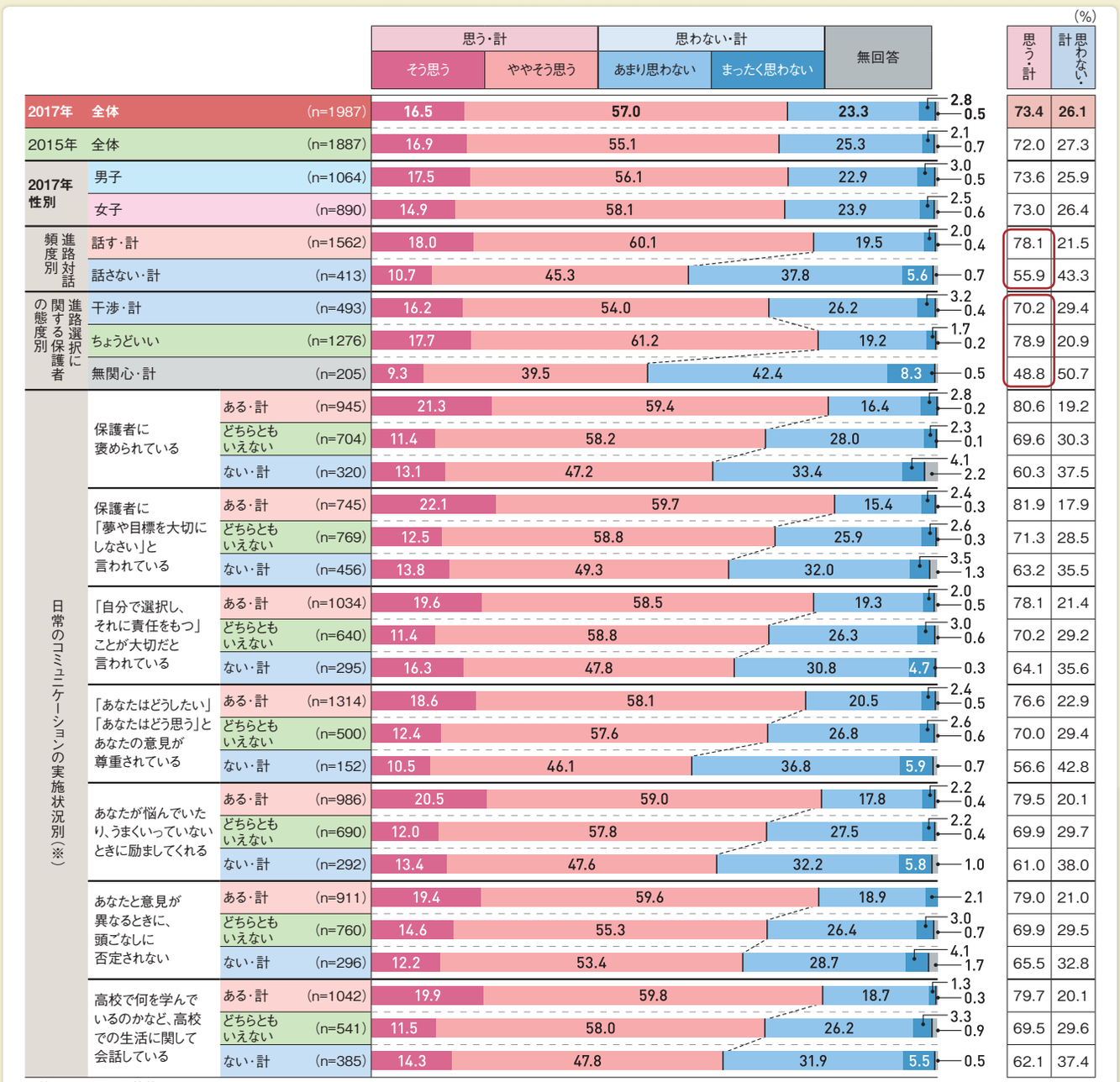
自分の進路を歩んでいけそうな気がするか、「思う・計」に着目してみた（図15）。進路対話頻度別では、「話す」層は78%が自分の進路を歩んでいけると「思う」と回答、「話さない」層（56%）を大きく上回る。

進路選択に関する保護者の態度別にみると、「干渉」「ちょうどいい」層は「思う」が7割以上になるが、「無関心」層は約5割に留まる。

日常のコミュニケーション実施状況別にみると、「保護者に褒められている」「保護者に『夢や目標を大切にしなさい』と言われている」「『自分で選択し、それに責任をもつ』ことが大切だと言われている」「『あなたはどうしたい』『あなたはどう思う』とあなたの意見が尊重されている」「あなたが悩んでいたりうまくいっていないときに励ましてくれる」「あなたと意見が異なるときに頭ごなしに否定されない」「高校での生活に関して会話している」状況が「ある」層ほど高い。

保護者が子どもの意思を尊重して、見守り励ますことで、高校生は自らの進路選択について、なにがあっても実現できるという自信を持つことができているようだ。

図15　自分の進路を歩んでいけそうか（高校生／単一回答）



※差がある項目のみ抜粋

高校への期待は多岐に広がる。働く意義や将来の目標設定も

7項目で高校への役割期待が増加 「働く意義を教える」も6P増

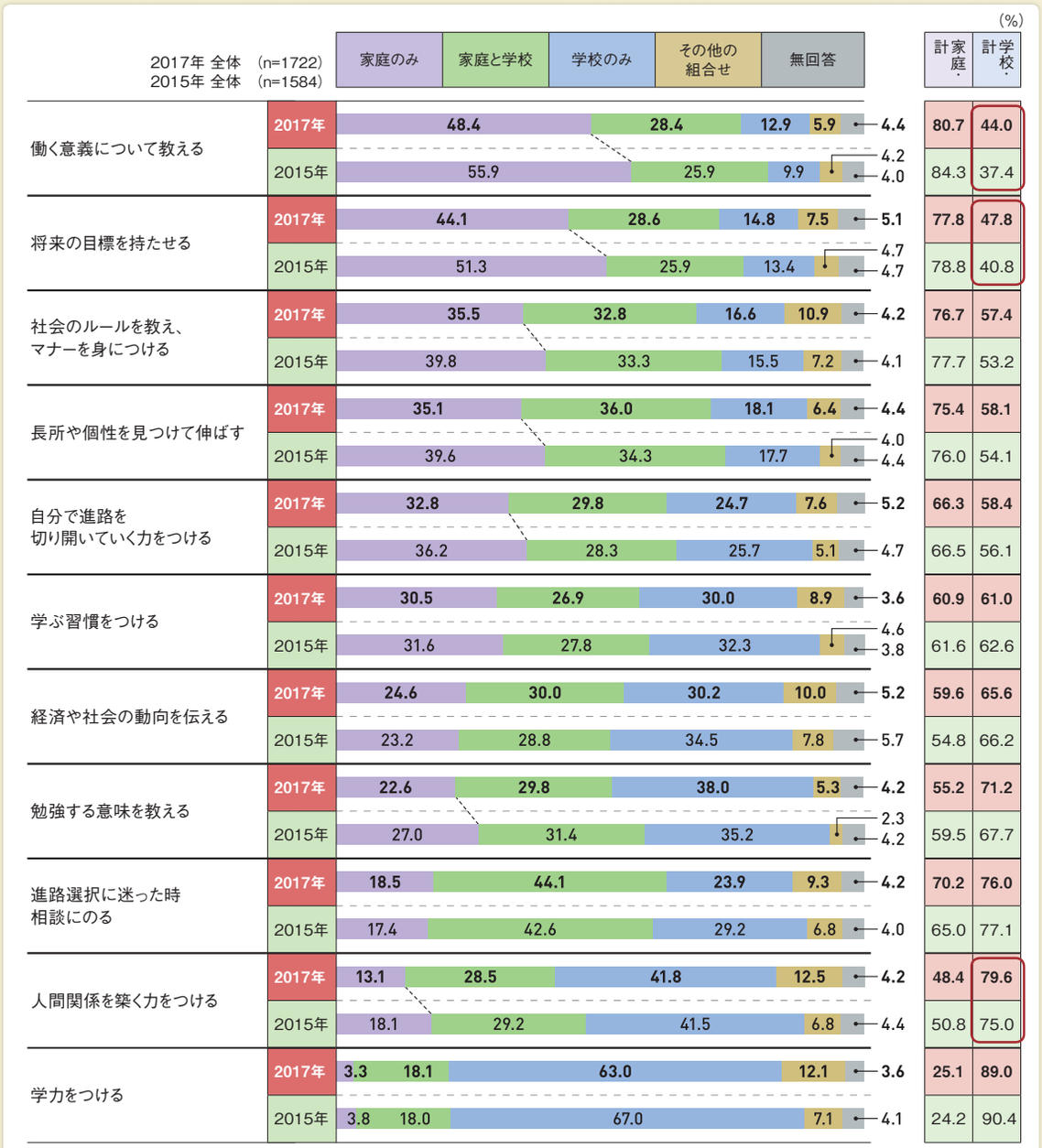
高校生に対する教育について11項目を保護者に提示し、「家庭」「学校」「その他」いずれの役割であるか選んでもらい、回答を分類した（図16）。

「家庭のみ」の役割は、「働く意義について教える」がトップ、以下「将来の目標を持たせる」「社会のルールを教え、マナーを身につける」「長所や個性を見つけて伸ばす」が続く。いずれも2015年に比べスコアは減少、家庭だけの教育ではないと考える保護者が増えた。

一方、「学校・計」（家庭と学校＋学校のみ）をみると、「学力をつける」が9割で最も高く、「人間関係を築く力をつける」「進路選択に迷った時相談にのる」「勉強する意味を教える」が7割超で続く。

2015年と比較すると、「働く意義について教える」「将来の目標を持たせる」について「学校・計」の割合が5ポイント以上、「人間関係を築く力を持たせる」も同様に増加している。学校に期待する教育が多岐に広がりつつあることがわかる。

図16 高校生に対する役割（保護者／各単一回答：「家庭の役割」「学校の役割」「その他の役割」回答組合せ）



※2017年「家庭のみ」のスコアで降順ソート